

認知科学期末試験

実施日 : 2006年2月2日(木) 限

場 所 : T0-2 教室

試験時間 : 90 分

担当者 : カク ミサ グレイス

注意事項 :

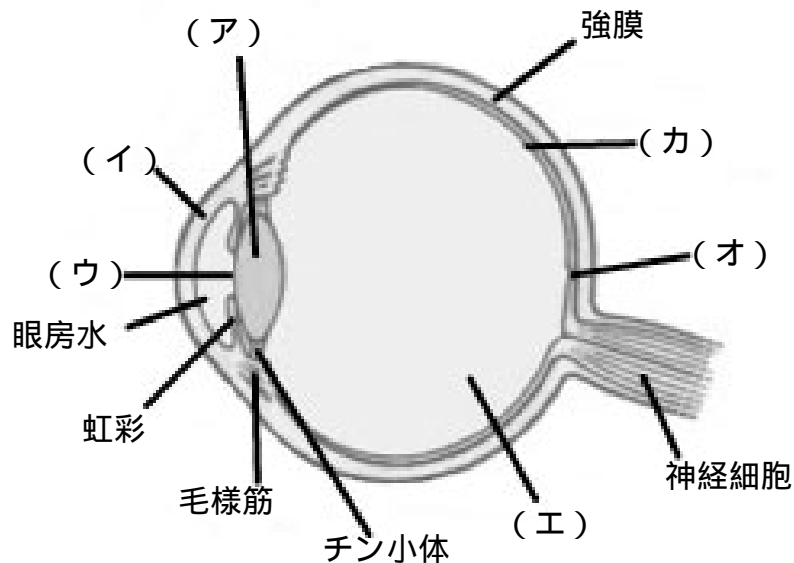
- 自作ノート、教科書、授業中に挙げた参考文献のみ持込可。
- 他人のノートのコピー、講義ノートをプリントアウトした紙、その他の文献は持ち込み不可。持ち込んでいるのがわかり次第、カンニングとする。
- テスト開始後、60 分以降の退出は可。ただし、一度退出した場合の教室への再入場は認めない。
- 試験中の問題に対する質問は原則として認めない。何かある場合は、挙手にて合図を行い、担当者に直接質問すること。
- カンニングが発覚した場合は、認知科学の成績を0点とし、評価は不可となる。
- 指示があるまで問題用紙を開いたり、解答を始めてはならない。
- 終了の指示があった際は、速やかに筆記用具を置き、解答を終了すること。

- 問題用紙と解答用紙は別になっている。問題用紙は試験終了後持ち帰ることができる。
- 解答用紙を全員分回収し、担当者が枚数を確認するまで席で静かに待機すること。
- 解答用紙には学籍番号と氏名を必ず記入すること。記入漏れのある場合は0点とする。
- 解答は、原則として授業での内容を踏まえた上で行うこと。

問題1 [穴埋め問題]

次のカタカナの中に当てはまる用語を書きなさい。(20点)

1)



- 2) (キ)とは生物が生まれつき持っており、その発現には経験が必要としない行動をいうが、それには(ク)(ケ)(コ)などが含まれる。一方、(サ)とはその逆に、生物が経験によって身につけた行動のことをいう。特に(コ)は(シ)によって自動的に生じる、種に特有な一連の行動パターンということができる。このような特定の刺激が脳の特定の中枢に働きかけ、それによって特定の行動が生起するメカニズムを(ス)という。
- 3) 記憶は保持時間の違いから(セ)(ソ)(タ)に分けられる。情報は(セ)ではごく短時間だけ意味づけに符号せず感覚情報のままで貯蔵される。特に視覚情報の(セ)を、(チ)と呼び、その保持時間は(ツ)といわれている。(ソ)の記憶の容量は視覚情報では(テ)程度であり、(ト)されることにより内容が確かな物となり、最終的に(タ)に送られる。

問題2 [正誤問題]

次の文章が正しければ、○を、間違えていれば×を書き、さらに間違えている箇所を下線を引き正しくなるように書き換えなさい。(20点)

- 1) 聴覚の生じる最低の周波数を最小可聴限といい、最高可聴限以上の音は超音波という
- 2) 使い勝手のよいものは、すべて使いやすいものといえる
- 3) 人において、入力されたパターンがどのカテゴリーに属するかを決定することをパターン認知という
- 4) 知能指数の高さと、学校の成績は相関関係にある
- 5) 言語の臨界期を迎えた子どもの言語獲得速度は著しく低下する

問題3 [説明問題]

次の事柄をカッコ内に含まれている用語すべてを使って、詳しく説明しなさい。
カッコ内に含まれる用語以外の用語を追加しても構わない。(20点)

1) イメージ研究の変遷

[二重符号化説、イメージ論争、Kosslyn のイメージモデル、心的回転、心的走査]

2) 認知科学とは

[心的表象、実験心理学的アプローチ、情報処理アプローチ、認知過程アプローチ、
認知構造アプローチ]

問題4 [論述問題]

次のそれぞれについて、授業の内容をふまえて詳しく答えなさい。
特に授業で学習した用語を用い、その理由と原理を説明しなさい。(40点)

1) トンネル内の照明が暗いのはなぜか？

2) 道路標識は絵で表現されているものが多いのはなぜか？

3) イベントのスタッフと客の関係がたいていの場合よそよそしいのはなぜか？

4) 一夜漬けが有効な場合と有効でない場合があるのはなぜか？

MEMO

このページは自由に使って構わない